

探究の高度化・自律化とSDGsの視点を踏まえた 総合的な探究の時間のカリキュラム開発

－持続可能な地域社会の創り手の育成に向けて－

Curriculum Design Based on Sophisticated and Autonomous Inquiries and SDG-Concept in the Period for Integrated Studies

－To Foster Creators of sustainable local communities－

鈴木泰輔¹, 長倉 守²

SUZUKI Taisuke¹, NAGAKURA Mamoru²

[キーワード Keyword]	総合的な探究の時間, 探究の高度化・自律化, SDGs, 持続可能な地域社会
[所属 Institution]	¹ 岐阜県公立高等学校 (Senior High School, Gifu Prefecture), ² 岐阜大学教職大学院 (Graduate School of Education, Gifu University)

[要 旨 Abstract] 本開発実践の目的は、探究の高度化・自律化とSDGsの視点を踏まえて、持続可能な地域社会の創り手を育成する総合的な探究の時間のカリキュラムを開発することである。A高校が位置する岐阜県飛騨市は、人口減少を起因として、今後の日本社会が直面する様々な課題を抱えている。このような地域で学ぶ高校生が、地域課題の背景と本質を理解した深い探究に取り組むカリキュラム開発における課題とそれを解決する枠組みを検討し、援用の実際について検討しカリキュラムを組織的に開発・実践した。

1 はじめに

持続可能な社会の創り手の育成については、2018年版学習指導要領の前文に提示されるなど今日の学校教育における重要課題となっている。教育課程を通じて持続可能な社会づくりに寄与する資質・能力を育む教育活動が求められている。こうした課題に中核として取り組む領域として期待されているのが、総合的な探究の時間であるが、探究のプロセスを踏まえた深い探究には至っていないと指摘され、全国的にカリキュラム開発が喫緊の課題となっている。全国の人口減少の20～30年先を進む地域に位置するA高校においても、地域課題を発見・解決していくための資質・能力を育成するために、探究学習がさらに充実するカリキュラムを開発することが求められている。

これを踏まえ鈴木・長倉 (2022) では、飛騨地域及びA高校の現状と課題、学習指導要領の総合的な探究の時間で求められていることについて整理した。高等学校では、小・中学校の成果を踏まえて、意義深い探究に自律して取り組むことになる。そこで、探究の高度化・自律化の7つの視点 (整合性、効果性、鋭角性、広角性、自己課題、運用、社会参画) とともに、UNESCO (2020) や田村・佐藤 (2020) を参照して持続可能な社会の担い手に求められる8つの要素 (システム思考、予測、規範、戦略、協働、批判的思考、自己認識、統合的問題解決) について検討した。そのうえで実施するための枠組として、SDGsを視点とした探究と探究の高度化・自律化との関連を示したモデル図、探究×SDGsカリキュラムシート、総合的な探究の時間を推進する組織を検討した。他方、これらの開発枠組を踏まえたカリキュラム化と実践、検証が課題となっていた。そこで本稿では、援用の実際について、第一筆者の勤務校における実践を事例に考察することを目的とする。

2 援用の実際

鈴木・長倉 (2022) における検討を踏まえ、開発枠組をもとに構造したカリキュラムと授業における展開の状況について、重点的に行った手立てについての言及を交えて述べる。

2.1 開発実践の概要

まず、鈴木・長倉 (2022) で検討した事項を踏まえ、単元における探究×SDGsカリキュラムシートもとに、表1に示したように単元のカリキュラムを構想した。単元名、目標、探究の概要、カリキュラム展開の概要は、次の表2のとおりである。

表1 本単元における探究×SDGsカリキュラムシート

過程	日	学習内容	探究の過程 (学習指導要領)	高度化		自律化		探究活動 (佐藤,2020)	SDGsに関する資質・能力									
				ア	イ	ウ	エ		オ	カ	キ	1	2	3	4	5	6	7
STEP 01 魅力 発見	6/16	地域の魅力とは	課題の設定			◎	○	魅力想定	◎	○								
	課題	地域の魅力を文章にしよう	情報の収集・分析	○	◎	○	○	探検準備			○	○					○	
	6/21	地域の魅力を発表しよう	まとめ・表現		◎	○		発想		○						◎		
	6/28	市長ワークショップ	探究学習について		◎		○	魅力発見	◎	○								
STEP 02 課題 発見	7/12	地域の課題発見の準備をしよう	課題の設定	◎			○	課題設定	◎									○
	8/30	地域の課題を発見しよう	情報の収集			◎	○	調査計画									◎	
	9/13	地域の課題を文章にしよう	整理・分析		◎		○	課題検証	◎									
	10/4	地域の魅力と課題を発表しよう	まとめ・表現		◎		○	課題発見			○						◎	
STEP 03 解決案 提案	11/5	解決策のアイデアを出そう	課題の設定			◎	○	解決策想定	◎									○
	11/29	課題解決策を選択しよう	情報の収集			◎	○	記事例閲覧										◎
	12/6	課題解決策資料を作ろう	整理・分析		○	◎	○	解決案発想	◎				◎					
	12/13	地域の大人に課題解決を発表しよう	まとめ・表現		◎	○	○	解決策提案			○							◎
STEP 04 解決案 実行	1/17	市役所職員と地域版SDGsを議論しよう	課題の設定			○	◎	実行案設定										○
	1/24	市役所職員と地域版SDGsを策定しよう	情報の収集		○		◎	企画立案	○									◎
	1/31	地域版SDGs発表資料を作ろう	整理・分析		○		◎	実行案検証	○			○	◎					
	2/4	報告会で地域版SDGsを発表しよう	まとめ・表現		○		◎	振返・共有			○							◎

高度化 (ア整合性 イ効果性 ウ鋭角性 エ広角性)
 自律化 (オ自己課題力運用 キ社会参画)
 SDGs (1 システム思考 2 予測 3 規範 4 戦略 5 協働 6 批判的思考 7 自己認識 8 統合的問題解決)

表2 単元の概要

ア 単元名

「地域版SDGsをつくろう！」(2年生)

イ 単元の目標

持続可能な魅力ある地域づくりへのアイデアを考える探究の活動を通して、商店街の衰退や伝統行事の後継者不足などの地域課題の背景にある問題の複雑性や解決の困難性を理解し、さらに、地域の方々と関わる中で自己との関わりから持続可能な地域社会づくりの在り方を検討して、地域課題の解決策を提案するとともに、自己の在り方生き方について考えることができる。

ウ 探究の概要

- 【STEP01】市長のワークショップを通して地域の魅力を発見する
- 【STEP02】SDGsの視点を通して地域の課題を発見する
- 【STEP03】地域の課題に対する最適な解決策を地域の方々とともに考える
- 【STEP04】市役所職員とともに地域版SDGsを作成し報告会で発表する

単元名は「地域版SDGsをつくろう！」とし、単元の目標を、「持続可能な魅力ある地域づくりへのアイデアを考える探究の活動を通して、商店街の衰退や伝統行事の後継者不足などの地域課題の背景にある問題の複雑性や解決の困難性を理解し、さらに、地域の方々と関わる中で自己との関わりから持続可能な地域社会づくりの在り方を検討して、地域課題の解決策を提案するとともに、自己の在り方生き方について考えることができる」と設定した。なお、単元の学習内容等を考える際には、「探究×SDGs“地域の課題”解決のコツ」(トモノカイ, 2020)を基に検討した。

次に、4つのSTEPで構成される探究の概要について、STEPごとの特徴を、探究のプロセスと関連させて、表3をもとに説明する。表3では、4つのSTEPを小さな探究のプロセスとして一回ずつ繰り返すことで、STEP01が「課題の設定」、STEP02が「情報の収集」、STEP03が「整理・分析」、STEP04が「まとめ・表現」としての役割を果たし、最終的に一つの大きな探究のプロセスが展開できることを示している。探究のプロセスの中でも、「課題の設定」については、総合的な探究の時間の授業を担当する教員の多くが、課題の発見や課題の設定の困難性を認識している。それは、地域の課題を探る際に、どこに注目すべきかねらいが定まらないからである。

高等学校における総合的な探究の時間では、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していく。そのためには、単元の冒頭で、いきなり地域の課題を考えるの

表3 単元を構成するSTEPごとの特徴と探究のプロセスとの関連

探究のプロセス STEP	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
STEP01 魅力の発見 【課題の設定】	自分にとっての地域の魅力とは何かを洗い出す	現地調査として魅力を写真に収める	魅力を感じた理由を考察する	写真とコメントで共有する
STEP02 課題の発見 【情報の収集】	魅力を阻害するものから考察し仮説を立てる	現地調査として仮説を検証するためにインタビューする	現地調査の結果から課題とその背景を考察する	発見した魅力と課題を600字程度の文章で共有する
STEP03 解決策の提案 【整理・分析】	共通項でグループを編成し、解決したい課題を検討する	新聞記事や参考情報を収集し、解決策のアイデアを持ち寄る	最適な解決策をグループで吟味して1つに絞り込む	選択した解決策のプレゼン資料を作成し提案する
STEP04 解決策の実行 【まとめ・表現】	解決策をどのように実行するか課題を取り巻くつながりを考える	解決策実行の協力者となる飛騨市役所の職員と議論する	解決策実行の計画を飛騨市役所の職員と立案する	立案した計画を「地域版SDGs」として報告会で発表する

表4 A高校における総合的な探究の時間に関する生徒と教員の強みと課題

	生徒の自己認識	教員の生徒に対する認識
強み	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方を考えながら探究している 地域に貢献したい気持ちを持っている 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習や地域の方との交流や助言から、学びを深めることができる 地域に貢献したい気持ちを持っている
課題	<ul style="list-style-type: none"> 視野を広げて、問題の複雑さを捉える 学びを深めて、問題の複雑さを捉える 	<ul style="list-style-type: none"> 視野を広げて、問題の複雑さを捉える 実現への道筋を描きながら、探究活動に主体的に取り組むことができる

ではなく、自分にとっての地域の魅力とは何か、その魅力がこれからどうなってほしいと願うのか、しかし、その魅力があってほしい理想になっていかない原因があるのかについて考えることから、単元における探究を始めることを重視した。これにより、生徒たちは、解決したいと強く心が動かされるような課題を見つけ、協働して解決しようと取り組む過程で、「探究」という問題解決のプロセスを学ぶことができると期待する。

そこで単元において、どのような手立てを重点的に行うとよいのかを明確にするために、2年生（105名）と総合的な探究の時間の授業を担当する教員（23名）を対象に、4月に実施した質問紙調査の結果（表4）を用いて検討した。表4に示した強みとは、肯定的な回答があった上位2つの質問項目であり、課題とは否定的な回答があった下位2つの項目である。生徒の大半が、地域に貢献したい気持ちを持っていることが明らかになった。また多くの生徒が、自分はどうなりたいのかを考えながら探究することを大切にしている。よって、これらを生徒の強みとした。しかしながら、視野を広げたり、学んだことを深めたりして、問題の複雑さを捉えることには課題があると認識している。よって、このことをA高校の生徒の課題とした。

一方、総合的な探究の時間において生徒の学びを支援する教員は、生徒は地域に貢献したい気持ちを持っていると認識している。これは、総合的な探究の時間の授業以外にも、グループ学習や地域の方と交流する機会が、A高校の教育活動に多く設定されていることの成果であろう。ここで注目したいのは、視野を広げたり、学んだことを深めたりして、問題の複雑さを捉えることには課題があるという認識が、生徒と共通していたことである。そこで生徒が上述の課題を自覚して学習に取り組めるよう、教員は上述の課題を意識して生徒の学びを支援できるよう、カリキュラム開発に必要な視点として、探究の高度化・自律化においては「鋭角性」と「広角性」、さらにはこれら2つを高めるために欠かせない「整合性」の3つを、SDGsの視点においては「システム思考」と「批判的思考」の2つに重点を置くこととした。実践にあたっては、SDGsを視点とした探究と探究の高度化・自律化との関連を示したモデル図と探究×SDGsカリキュラムシート、ワーキンググループを活用した。以下では、STEP01～02における重点的な手立ての具体を示す。

2.2 STEP01 地域の魅力を発見しよう！

ここでは、STEP 01「地域の魅力」の発見について記述する。図1はSTEP01の概要である。探究×SDGsカリキュラムシートとの関連を示した。図1中のSTEP01-1と6のカリキュラムについて、探究の高度化・自律化とSDGsの視点との関わりからその具体を説明する。

STEP01では、次に示す4つの活動を通して、生徒は、自分にとっての“地域の魅力”を発見した。

- 1 地域にはどのような魅力があるのか、SDGsの視点から想定する
- 2 “地域の魅力”を写真に収める
- 3 発見した“地域の魅力”を言葉にする
- 4 発見した自分にとっての“地域の魅力”を共有する

		STEP 01 “地域の魅力”の発見																		
		活動内容 自分にとっての“地域の魅力”を発見しよう。																		
		学習の ・ 自分にとっての“地域の魅力”について発想を広げよう。 ねらい ・ 自分にとっての“地域の魅力”の写真を撮って、その理由を共有しよう。																		
過程	日	学習内容	探究過程 (学習指導要領)	高度化					探究活動 (佐藤2020)											
				アイ	ウ	エ	オ	カ	キ	1	2	3	4	5	6	7	8			
STEP01 魅力発見	6・16	地域の魅力とは 1 自分たちの地域にどのような魅力があるか考える 2 関心のある“地域の魅力”についてまとめる	課題の設定				◎	○				◎	○							
	課題	地域の魅力を発見する 3 地域を探索し、魅力を感じたものを写真に撮る 4 魅力を感じた理由を言葉にする	情報の収集 整理・分析	○	◎		○	○					◎	◎						○
	6・21	地域の魅力を発表しよう 5 発見した魅力について共有する 6 ありたい未来を描く	まとめ・表現				◎	○				○								◎
	6・28	市長ワークショップ 2030年の地域の姿をイメージしながら、発見した“地域の魅力”の維持・拡大を阻害するような課題とは何かを考える	STEP01以降の探究学習について				◎					◎	○							

高度化 (ア整合性 イ効果性 ウ鋭角性 エ広角性) / 自律化 (オ自己課題思考 1 システム思考 2 予測 3 規範 4 戦略 5 協働 6 批判的思考 7 自己認識 8 統合的問題解決)

図1 STEP01の全体像と探究×SDGsカリキュラムシートとの関連

2.2.1 STEP01-1 広角性で視点を広げ、システム思考で重層性に気付かせる

STEP01-1の授業について説明する。この授業は広角性とシステム思考を基に構成し、視点の広角性と視覚的な情報表現を促すウェビングマップを活用しながら、SDGsの視点で、広く地域の魅力について考えることを目標にした。学習の展開は図2に示すとおりである。

図2中の④の場面で、探究の高度化・自律化の広角性とSDGsの視点のシステム思考に重点を置き、生徒が自覚的に学び、教員が意識的に支援できるようにした。ここでは、広角性とシステム思考に重点を置き、SDGsの視点から地域の魅力について考えるために、SDGsのウェディングケーキ・モデルを提示した。これは、SDGs17の目標を「環境」「社会・文化」「経済」で捉えたものである。このモデルはSDGsを考える際の視点の多様性や3領域の重層性を通じて問題の複雑性を示そうとしたものである。生徒はSDGs17の目標が、個別の課題だと考

STEP01-1 “地域の魅力”の発見 (6/16)	
学習目標	SDGsの視点から、ウェビングマップを活用しながら、広く“地域の魅力”について考えよう。
活動内容	・ SDGsについて概要を知ろう ・ 自分にとっての“地域の魅力”について想定しよう ・ 発想を広げるウェビングマップの手法を知ろう
学習の流れ	①探究活動全体の見通しを持つ ②SDGsについての理解を深めよう ③STEP01全体の見通しを持つ ④地域にどのような魅力があるのか考えよう (個15分) ⑤関心ある“地域の魅力”についてまとめよう (個15分) ⑥次回までの課題を確認しよう

図2 STEP01-1 学習指導案



図3 STEP01-1 ウェビングマップ

えがちである。そこで、この図を提示することにより、SDGsの問題を把握するに当たり、視点の広がりや重層性に気付かせることができると考えた。

このウェディングケーキ・モデルにおけるSDGsで配慮すべき3つの領域を切り口に、図3に示すウェビングマップを用いた個人ワークに取り組んだ。ここでは、先ほどの地域の魅力を想定するための発想を広げるように支援した。SDGsは自分と距離のあるものと考えられてしまうことが多いが、この個人ワークを通して、SDGsが身近なこととつながっていることが意識できる。この生徒は、自分にとって、地域の魅力だと感じ、それが自分の関心があるものとして、「古川祭」を選び、○で囲んでいる。このように、飛騨における問題の広がりや重層性を考え、問題の複雑性を捉えようとした。

2.2.2 STEP01-6 批判的思考で意見を交流し、鋭角性で学びを深める

次に、STEP01-6の授業について説明する。この授業は鋭角性と批判的思考を基に構成した。この時間では、ありたい未来について思考を深める学習を展開した。その際には、自身で捉えた地域の魅力を撮影した写真を基に、他者からの批評を交えて、思考を深めた。学習の展開は図4に示すとおりである。

図4中の⑤と⑥の場面で、他者からの批評や未来を予測する場面を設定した。探究の高度化・自律化の鋭角性とSDGsの視点の批判的思考に重点を置き、生徒が自覚的に学び、教員が意識的に支援できるようにした。

授業の具体としては、STEP01の6「ありたい未来を描こう」では、STEP01の4で行った個人ワークの結果を、グループのメンバーと共有するグループワークを図5のように行った。ありたい未来を描くために、①～④について考え、魅力が持続可能なものにならない背景について仮説を立てた。このグループは、発見した地域の魅力が、理想どおりにならない原因を考えたり、グループメンバーの異なる考えを取り入れたりすることで、ここまでの学びを深め、問題点として「人がいないこと」が共通していると整理し、STEP02以降の課題の設定につなげた(図5中の①)。このように、鋭角性と批判的思考に重点を置き、複数の視点から地域の魅力を共有することで、同じ地域に住んでいても、魅力を感じるものが人それぞれ違うという点に気付かせ、自分がどうありたいかを問い直したり、今後の探究の進め方を考えたりできるようにした。

2.3 STEP02 地域の課題を発見しよう！

ここでは、STEP 02「地域の課題」の発見について記述する。これはSTEP02の概要である。探究×SDGsカリキュラムシートとの関連を示した。図6で示したSTEP02の6について、探究の高度化・自律化とSDGsの視点との関わりからその具体を説明する。STEP02では、次に示す4つの活動を通して、生徒は、STEP01で発見した“地域の魅力”に関連する“地域の課題”を発見した。

- 1 事前にどのような調査を行うかについて、調査計画を立てる
- 2 現地調査を行い、“地域の課題”を発見する
- 3 アウトラインに沿って、発見した“地域の魅力と課題”を文章にする
- 4 発見した“地域の魅力と課題”を共有する

STEP01-6 “地域の魅力”の発見 (6/21)	
・発見した魅力について共有しよう ・ありたい未来を描こう	
学習目標	撮影してきた自分にとっての“地域の魅力”について、どんな魅力か、なぜ魅力を感じたのかを言語化させ、グループで共有する。その後、“ありたい未来”を思い描くことで仮説を立て、課題の設定につなげよう。
活動内容	・自分が感じていることを言語化することに慣れよう ・自分の感じていることを相互に共有し、違いを感じよう ・課題の設定に向けた仮説を立てよう
学習の流れ	①今日の授業について見通しを持とう ②撮影した写真と魅力に感じた理由を言葉にしよう ③発見した“地域の魅力”についてグループで共有しよう ④他のメンバーの“地域の魅力”について聞いてみよう ⑤“ありたい未来”を描く問いについて考えよう (全5分) ⑥考えた“ありたい未来”についてグループで共有しよう (個5分) ⑦共通する問題や課題がないか考え仮説を立てよう (個5分) ⑧次回の内容(市長ワークショップ)について

図4 STEP01-6 学習指導案

発見した魅力 (メンバーの名前)	① どうなっていると最高?	② どうしていきたいか?	③ 本当に実現できる?	④ 何が問題になりそう?
古川祭の起し太鼓 (Sさん自身)	多くの高卒業生も 参加し盛り上げている	高校生もボランティア で祭りに関わっていく	低—中—高	担い手が足りない ので維持できない
瀬戸川の白壁土蔵 (Tさん)	全国各地からこの 風景を見に来る	もっと知ってもらえる ように発信する	低—中—高	冬場の除雪や夏の 世話をする人がいない

共通するものはないか?
人がいないこと

図5 批判的思考を基に、“地域の魅力”をグループで共有

		STEP 02 “地域の課題”の発見																		
活動内容 自分にとっての“地域の魅力”に関する課題を発見し、文章化して共有しよう。																				
学習のねらい ・書籍・新聞等だけではなく、地域でインタビュー調査を実施しよう。																				
ねらい ・発見した課題を、アウトラインに沿って文章にまとめよう。																				
過程	日	学習内容	探究過程 (学習指導要領)	高度化			自律化			探究活動 (佐藤2020)	SDGsに関する資質能力									
				アイ	ウ	エ	オ	カ	キ		1	2	3	4	5	6	7	8		
STEP 02 課題 発見	7 ・ 12	地域の課題発見の準備をしよう 1 “地域の課題”をどのように調べるかを定める。 2 インタビューの内容を事前に考える。	課題の設定	◎				○		課題設定	◎									○
	8 ・ 30	地域の課題を発見しよう 3 インタビュー情報をメモする。 4 その他調査した情報をメモする。	情報の収集			◎		○		調査計画										◎
	9 ・ 13	地域の課題を文章にしよう 5 調査で分かった課題と背景を整理する。 6 アウトラインに沿って、各項目を文章化する。	整理・分析			◎		○		課題検証	◎									
	10 ・ 4	地域の魅力と課題を発表しよう 7 発見した魅力と課題についてみんなで共有する。	まとめ・表現			◎		○		課題発見			○							◎

高度化 (ア整合性 イ効果性 ウ鋭角性 エ広角性)
自律化 (オ自己課題 カ運用 キ社会参画)
SDGs (1 システム思考 2 予測 3 規範 4 戦略 5 協働 6 批判的思考 7 自己認識 8 統合的問題解決)

図6 STEP02の全体像と探究×SDGsカリキュラムシートとの関連

2.3.1 STEP02-6 システム思考で全体像を捉え、鋭角性で学びを深める

ここでは、STEP02-6の授業について説明する。この授業は鋭角性とシステム思考を基に構成した。この時間では、調べてきた内容を、あらかじめ設定したアウトラインに沿って、文章としてまとめた。学習の展開は図7に示すとおりである。②～⑤の場面で、探究の高度化・自律化の鋭角性とSDGsの視点のシステム思考に重点を置き、生徒が自覚的に学び、教員が意識的に支援できるようにした。以下では、授業の具体を示す。

STEP02の6「アウトラインに沿って、各項目を文章化する」では、これまでの学びを文章化するために、図8の「アウトライン」を紹介した。これは、ある程度まとまりのある文章を書くときの設計図のようなものである。構造を整理し、鋭角性を促すことで、これまでの学びをいくつかの段落に分けてまとめていくと伝えることで、文章を書くことに抵抗がある生徒も、記述に対するハードルを下げることができると考えた。

第1段落では、魅力とその理由について、第2段落では、理想から現実を差し引いたことで見つかった地域の課題について、第3段落ではその背景について、第4段落ではこの探究学習のテーマであるSDGsとのつながりについて、それぞれ150字程度の文章にまとめるが、150文字は、Twitterの投稿文程度の文字数である。最終的に、アウトラインの項目のつながりを調整し、「私が見つけた地域の魅力と課題」という600字程度の文章を完成させた。ここからは、生徒が具体的にどのようにこれまでの学びを文章化したのかを示していく。

アウトラインに沿って、各項目を文章化しよう		STEP02-6 “地域の課題”の発見 (9/13)
学習目標	調査によって見つけた「私が見つけた“地域の魅力と課題”」について、アウトラインに従って合計600字程度の文章にまとめよう。	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 自分の調査結果を言語化することに慣れよう アウトラインを作ると文章が書きやすいことを実感しよう 	
学習の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ① アウトラインの考え方について理解しよう (全5分) ② 見つけた“地域の魅力”についてまとめよう (個10分) ③ どの“地域の課題”を見つけたかまとめよう (個10分) ④ どんな背景からそれが言えるのかまとめよう (個10分) ⑤ この課題とSDGsとのつながりについてまとめよう (個10分) ⑥ 次回までの課題について 	

図7 STEP02-6 学習指導案

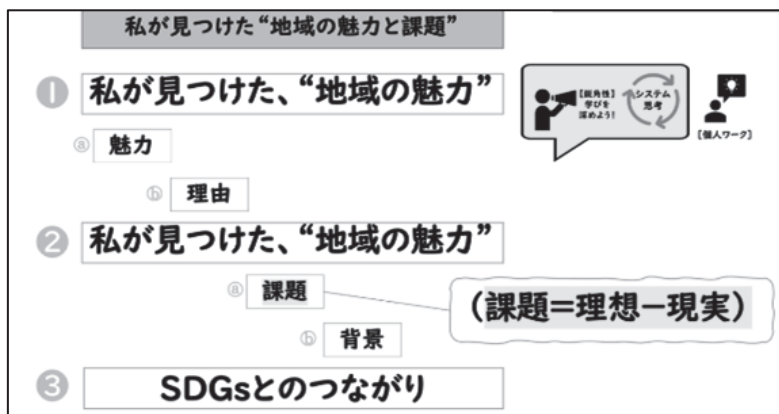


図8 アウトラインに沿って、鋭角性を促し、各項目を文章化

第1段落 私が見つけた“地域の魅力”

STEP01の4「魅力を感じた理由を言葉にしよう」では、図9のように、魅力とその理由を書き出した。このシートを基に、魅力とその理由を、図10のように、第1段落にまとめた。この生徒は、地域の魅力を複数の視点から価値付け（図10の①）、魅力の時間による変化を意識して（図10の②）、これまでの学びを深めている。

昔から受け継がれてきた日本を代表する祭りの一つ。
“古川やんちゃ”と呼ばれる数百人の男たちが、町内の誇りと名誉をかけて激しくぶつかり合う。国の重要無形民俗文化財と、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。

長い歴史がある祭りを、地域の人々が守り伝えてきたことが魅力だと感じた理由。
この地域の魅力を、他の地域の人はもちろん、海外の人や、次の世代の人にも伝えていきたい。

図9 鋭角性を促し地域の魅力を言語化

第2段落 私が見つけた“地域の課題”

STEP01の6「ありたい未来を描こう」において、図5の①～④について考え、地域の魅力が理想するものにならないとするなら、何が問題になりそうかを考えた。

このシートを基に、地域の魅力に対する理想と仮説、そして、そこから導き出した課題を、図11のように、第2段落にまとめた。この生徒は、批判的思考でグループのメンバーが持っている考えを取り入れ、飛騨市の人口減少が、地域の様々な困りごとにつながっていると整理している（図11中の①）。

古川祭の「起し太鼓」は、昔から受け継がれてきた日本を代表する祭りの一つ。国の重要無形民俗文化財と、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。①

“古川やんちゃ”と呼ばれる数百人の男たちが、町内の誇りと名誉をかけて激しくぶつかり合う。長い歴史がある祭りを、地域の人々が守り伝えてきたことが魅力だと感じた。②

図10 “地域の魅力”に対する学びの深まり

この地域の魅力を、他の地域の人はもちろん、海外の人や、次の世代の人にも伝えていきたい。

飛騨市の人口が減少しているため、祭りの担い手も足りなくなり、祭りに携わる方は困っているのではないかと。①

なぜ地域の祭りを維持していくことが難しくなっているのか、このことによってどんな弊害が生じているのか。

図11 “地域の魅力”に対する理想と仮説、課題を、鋭角性を促して言語化

第3段落 私が見つけた“地域の課題”の背景

ここでは夏休みに行ったインタビュー調査の結果を、図12にまとめた。

この生徒は、自分とは異なる立場にある複数の関係者から情報を集め（図12の①）、地域に人がいないことが、担い手だけでなく、維持費不足にもつながっていること（図12の②）や、高齢化の影響で、祭りの本質が昔と今と、これからで変わることや心配している（図12の③）ことを知り、視野を広めている。情報を集める際には、統計などの客観的データを得ることで、インタビューとは異なる角度から課題を発見することもあるので、飛騨市総合政策指針に掲載されているデータを参照することも奨励した。

その上で、調査で分かった地域の課題とその背景を、図13のように整理した。この

市役所観光課のAさん
① “この地域には祭りという魅力があるが、最近は継承していくための人やお金が足りないため、後世に残すことが難しくなっている。”
②
古川祭保存会のBさん
③ “高齢化により、祭りの本質を伝えていくことが難しくなっている。”

図12 調査で分かった地域の困りごとを整理

課題は
なぜ地域の祭りを維持していくことが難しくなっているのかということ。
なぜ起きているかという点、
① 高齢化により祭の担い手不足と費用不足があるから。

図13 調査で分かった地域の課題とその背景を整理

① インタビュー調査で、飛騨市役所観光課のAさんは、地域の祭りは魅力的だが、最近は継承していくための人やお金が足りないことを、祭保存会のBさんは、高齢化により、祭りの本質をどのように伝えていくか心配されていた。これらのことから、私が設定した課題の背景には、高齢化による祭の担い手不足があると言えそうだ。②

図14 地域の課題の背景について鋭角性を促して文章化

この生徒はインタビュー前、魅力が維持できないことの原因は担い手不足であるという仮説を立てていたが、インタビュー調査によって、費用の面でも課題があること（図13の①）を知ったことで、視野を広げ、問題の複雑さに対する理解を深めることができたことが記述からわかる。

これらのシートを基に、調査結果を整理・分析して明らかにした地域の課題の背景を、図14のように、第3段落にまとめた。この生徒は、自分とは違う立場にある複数の関係者との交流や助言から、地域の課題に対する自己認識を広く捉え直し（図14の①）、また、システム思考で、課題の背景にある複数の要素の関連性や、時間による変化などを捉えて（図14中の②）、これまでの学びを深めている。

第4段落 私が見つけた“地域の課題”とSDGsとのつながり

生徒が発見した地域の課題が、SDGsとどのようなつながりを持っているのかを考えるときの手立てとして、SDGsの第一人者である蟹江憲史氏の著書を紹介した。蟹江 (2021) は、SDGsを「誰も置き去りにしない世界の確立を目指す国際目標であり、

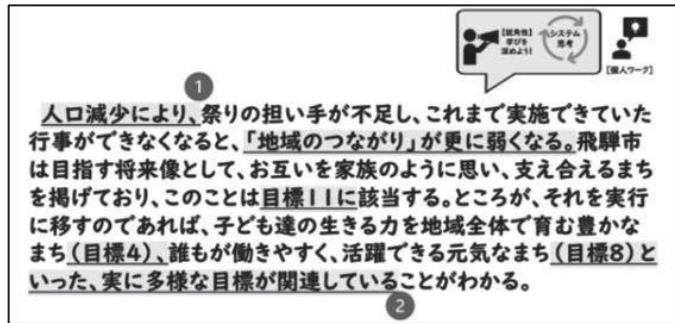


図15 地域の課題とSDGsとのつながりを、鋭角性を促して文章化

未来の立場に立って現在の問題点を総合的・統一的に見るための新しい方法」と定義している。第4段落をまとめるにあたって、この蟹江 (2021) を引用し、社会の中にある多くの課題は、相互に複雑に絡み合っていて、それぞれが関連し合っていることを再確認し、自分にとっての大切な目標を入り口に、総合的に（バランスよく）、統一的に（多様な目標とつなげて）見ることで、複数の目標とつなげてみるように声掛けした。これに加えて、生徒が発見した地域の課題を、SDGsの17の目標とつなぐために、市の総合政策指針 [データ編] を参照し、市のまちづくり政策の方向性にも言及するように声掛けした。また市のまちづくり政策が「元気・あんき・誇り」を切り口に、SDGsの視点から示されているため、生徒が見つけた“地域の課題”がSDGsとどのようにつながっているのかを考えられるようにした。

そのうえで自分が発見した地域の課題とSDGsとのつながりを、図15のように第4段落にまとめた。この生徒は、システム思考で、課題の背景にある複数の要素を地域のありうる未来像と関連させている（図15の①）。また、SDGsの視点で、統一的に（多様な目標とつなげて）、地域の魅力と課題を捉えて（図15の②）、これまでの学びを深めている。

2.4 ワーキンググループ

ここでは、総合的な探究の時間を推進する組織（ワーキンググループ）における会議記録等の具体について整理する。表5は、ワーキンググループと総合的な探究の時間の授業担当教員との打合せの概要を示したものである。まず打合せの日時については、週1回程度定期的に打合せの場を設定した。このように打合せが定期的な実施できた理由は、ワーキンググループや総合的な探究の時間の担当者と打合せを、週の時間割の中に位置付けたためである。

次に総合的な探究の時間の担当者との打合せにおけるエピソードである。7月20日の打合せでは、STEP02で、地域のインタビュー調査で分かった課題とその背景を整理する場面について検討した。その際に話題となったのは、生徒に課題を設定することが困難な状況が見られたため、支援方法に関する事項であった。本単元においては、本開発実践のカリキュラム開発に必要な視点である探究の高度化・自律化における、鋭角性と広角性、そして、これら二つを高めるために欠かせない整合性の3つを、SDGsの視点においては、システム思考と批判的思考の2つに重点を置いた。課題の設定では整合性に重点を置いて、テーマ設定は適切であるか、調査方法や内容に問題がないかなどを生徒が考えるよう促すことを筆者から確認した。さらに、総合的な探究の時間における指導方法は、教員の社会人の経験に基づいているため、「生徒が担当教員に意見を求めてくることを負担に感じる」という意見が出た。また教員が指導しすぎると、教員個人の「型」にはまった探究になってしまい、「生徒の柔軟な発想をつぶしてしまうことになる」という意見があった。これに対して、教員の発想を超えたユニークな探究を可能にさせるためにも、「視野を広げて、学びを深める」という視点で、何が足りないのかを生徒自身が考えるような手立てや声掛けが不可欠ではないかということ

表5 ワーキンググループと総合的な探究の時間の授業担当教員との打合せの概要

回	日時	議題	高度化・自律化	SDGs
			★手立ての検討	
1	4/2	年間指導計画の共有		
2	4/13 2限	年間指導計画の共有		
3	4/20 2限	ガイダンスについて		
4	4/27 2限	単元指導計画の共有		
5	5/11 2限	STEP01・02全体	魅力を発見→課題を発見	
6	5/18 2限	STEP01-1	広角性・自己課題	システム思考・予測
		地域の魅力とは	★ウェディングケーキモデル	
7	6/1 2限	STEP01-2	整合性・自己課題	戦略・自己認識
		地域の魅力を文章にする	★ウェビングマップ	
8	6/8 2限	STEP01-3	鋭角性・運用	規範・自己認識
		地域の魅力を発表する	★写真とコメントで共有	
9	6/22 2限	STEP01-4	鋭角性・社会参画	システム思考・予測
		市長ワークショップ	★仮説の立て方	
10	6/29 4限	STEP02-1	整合性・自己課題	システム思考・自己認識
		課題発見の準備をする	★調査方法	
11	7/13 2限	STEP02-2	広角性・運用	批判的思考
		地域の課題を発見する	★インタビュー調査	
12	7/20 2限	STEP02-3	鋭角性・運用	システム思考
		地域の課題を文章にする	★アウトライン	
13	9/14 4限	発表会について	★生徒の発表をどのように支援するか	
14	9/21 2限	STEP02-4	鋭角性・自己課題	規範・批判的思考
		魅力と課題を発表する	★600字程度の文章で共有	
15	10/5 2限	STEP01・02振り返り	★生徒の振り返りの共有	
16	10/19 2限	STEP03・04全体	課題を発見→解決策立案→解決策実行	
17	10/26 2限	グループ編成	★グループワークをどう支援するか	
18	11/2 2限	担当者割り振り	★グループワークをどう支援するか	
19	11/9 2限	STEP03-1	広角性・自己課題	システム思考・批判的思考・自己認識
		解決策のアイデア出し	★ブレインストーミング	
20	11/16 2限	STEP03-2	広角性・運用	批判的思考
		課題解決策を選択	★「効果×実現可能性」	
21	11/30 2限	STEP03-3	効果性・鋭角性・運用	システム思考・協働
		課題解決策資料作成	★パワーポイント資料	
22	12/7 2限	STEP03-4	効果性・鋭角性・社会参画	規範・批判的思考
		課題解決策の発表	★生徒の発表をどのように支援するか	

を説明した。また、各教科・科目等においても、「その時間の授業において、生徒が課題を設定したり仮説を立てたりする場面を設定すると、より深い探究に取り組むようになるのではないか」という意見もあった。このように、総合的な探究の時間の担当者との打合せは、単に連絡事項の確認の場ではなく、生徒の学習の状況の確認を起点として、本開発実践において重視する事項について具体的に認識を深める校内研修の場として機能した。

3 おわりに

以上のように、本稿の成果としては、A高校の総合的な探究の時間において実施するための枠組として鈴木・長倉（2022）で検討した、SDGsを視点とした探究と探究の高度化・自律化との関連を示したモデル図、探究×SDGsカリキュラムシートを基に、実際にカリキュラムに翻案し、授業を実施した。また総合的な探究の時間を推進する組織の実際について概要を整理するとともに、生徒の学習への貢献や果たす機能について提示した。生徒の学習状況や教員の会議への参加状況からは、開発枠組みが一定程度有効であることが認められた。残された課題としては、こうした結果を基盤として、生徒と教員に対して実施した質問紙調査の分析を通じた検証である。カリキュラムの開発枠組みについて検討を加え、実践校とともに他校の状況に応じて採用可能となるような実践的枠組みについて検討を行いたい。

参考文献

稲井達也（2019）、高等学校「探究的な学習」実践カリキュラム・マネジメント-導入のための実践事例23-

学事出版、160p.

一般社団法人Think the Earth (2018)、未来を変える目標SDGsアイデアブック、紀伊國屋書店、176p.

神原洋子 (2020)、一生使える探究のコツ実践の手引き入門編探究プロセスの流れをつかむ、トモノカイ

小見まいこ (2016)、教育ファシリテーション入門 人と集団が成長する場をつくる、みらいずWorks、pp.5-26、pp.52-57、pp.81

佐藤真久 (2019)、未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK、宣伝会議、128p.

佐藤真久・広石拓司 (2020)、SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ、みくに出版、240p.

田村学・佐藤真久 (2020)、探究×SDGs“地域の課題”解決のコツ～新聞記事を活用して“地域の課題”の解決に挑む～、(株)トモノカイ、pp.4-7、pp.12-13、pp.15-51、pp.54-85

田村学・廣瀬志保 (2017)、「探究」を探究する 本気で取り組む高校の探究活動、学事出版、192p.

奈須正裕 (2020)、「資質・能力」と学びのメカニズム次代の学びを創る知恵とワザ、東洋館出版社、216p.

西岡加名恵 (2020)、高等学校教科と探究の新しい学習評価 観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集、学事出版、192p.

飛騨市 (2020)、飛騨市総合政策指針～人口減少時代の処方箋～ (令和2年度)、飛騨市藤村宣之・橘春菜 (2018)、協同的探究学習で育む「わかる力」豊かな学びと育ちを支えるために、ミネルヴァ書房、240p.

松田剛典、佐伯勇、木村亮介(2019)、大学生のためのキャリアデザイン はじめての課題解決型プロジェクト、ミネルヴァ書房、144p.

溝上慎一・成田秀夫 (2016)、アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習、東信堂、160p.

文部科学省 (2018)、高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 総則編、275p.

文部科学省 (2018)、高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間編、185p.

文部科学省・国立教育政策研究所 (2021)、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 総合的な探究の時間、教育課程研究センター、106p.